

令和6年度第2回仁淀川地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：令和7年1月27日（月）9:30～11:30

場所：土佐市複合文化施設「つな一で」 3階 大会議室

出席：委員23名中、20名が出席（代理出席1名含む）

議事：（1）仁淀川地域アクションプランについて

1）仁淀川地域アクションプランの進捗状況等について

2）仁淀川地域アクションプランの追加・削除・拡充等（予定項目）について

（2）産業成長戦略について

第5期産業振興計画におけるバージョンアップのポイント（案）について

（3）元気な未来創造戦略について

議事（1）～（3）について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）

議事については、すべて了承された。

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）

（1）仁淀川地域アクションプランについて

1）仁淀川地域アクションプランの進捗状況等について

2）仁淀川地域アクションプランの追加・削除・拡充等（予定項目）について

（No.25 仁淀川町滞在交流型観光の推進）

（古味委員）

仁淀川町では、春の桜や秋の紅葉など季節ごとに多くの観光客が訪れるため、安全対策や地域住民の移動確保という観点から年間約1,300万円ほどをかけて警備員を配置している。ここ数年は高齢化等を要因として、出店数が激減しており、観光地であるにもかかわらず赤字となっている現状にある。この状況を改善するため、観光地の事前予約制度や入場料の徴収を行うことによって、少しでも費用負担を軽減し、黒字に転換できればと考えている。

（信吉地域産業振興監）

事前予約制度の導入及び入場料徴収の実施によるオーバーツーリズム対策の取り組みは、県内において例がない新しい試みとなっている。課題となっている「渋滞に伴う観光客の満足度の低下」、「警備費用の負担増」の改善につながるように、まずは、来年度から、先進地の視察及び具体的な手法の検討を行っていただき、令和8年度を目処に稼働していただけたらありがたい。

また、仁淀川町の取り組みの実践を通じて、仁淀川流域ひいては県内に展開していけるように、地域本部としても連携していきたい。

(No.4 本川手箱きじの販路拡大)

(和田氏 (西川委員代理))

本川手箱きじについては、観光協会としても様々な売り出しをしており、今年はふるさと納税を通じて鍋セットの販売を行った。これについては、売上も上がってきている状況。また、オンラインショップの販売においても、12月と1月の送料無料キャンペーンの実施により、売上は好調で、特に12月は贈答用やお歳暮用のニーズの高まりで多くの方にお買い上げいただき、売上の主力商品になっていると感じている。

加工品としては、「きじコロバーガー」や「きじコロック」を「UF0ラインアタック」や「きじ祭り」で販売しており、こちらについても徐々に販売を伸ばしていってもらいたいと考えている。

(信吉地域産業振興監)

本川手箱きじについては、コロナ禍で苦戦を強いられた中で、社長が積極的に商談会に参加をされて、20件ほどの取引先を開拓されてこられた。本年度の到達目標に対する達成度ではD評価となっているものの、対前年同期比で140%を超える売上実績となっており、明るい兆しも見えてきている。

2月に開催されるスーパーマーケットトレードショーに参画いただく予定のため、地域本部も一緒に営業のサポートをさせていただきたいと考えている。社長も本川地区の基幹産業として、本川手箱きじの販売に一生懸命取り組まれているので、地域本部としても、引き続きサポートをしていきたい。

(No.1 仁淀川流域の薬用作物の生産性の向上による産地振興)

(小田委員)

近年の農業を取り巻く環境は異常気象、農業従事者の減少、農業用資材の高騰等で厳しい状況にあるが、産地化を進めてきたサンショウについては、山間の傾斜地でも栽培が可能となったことに加え、栽培に比較的手がかからず軽量ということもあり、町内でも多くの生産者が栽培をしている。近年、取引価格が上昇したことで、生産者からも喜びの声が上がっており、やりがいを感じていると聞いている。

一方で、収穫時における労働力不足が喫緊の課題となっており、作業員の確保に苦労している現状がある。労働力不足に対応する取り組みとして、越知町役場内にて無料職業紹介所の設置を11月に行い、求人者と求職者をマッチングする仕組みを構築しており、2月から運用を開始することとしている。登録できる品目はサンショウだけでなく、他の品目や草刈り作業等についても求職登録可能としている。

これにより、短期間の収穫時期において危惧される労働力不足についても、条件が合えばマッチングが可能となる他、雇用者側の安心感を醸成することにもつながっていく。町としても事前に求職者情報を把握できるメリットもある。

また、傾斜地での作業で多くの人手が必要となるサンショウやショウガなどは、トイレの有無が労働力確保のネックとなっている。そのため、今年度から、町で簡易トイレを買い上げ、無償で農家に貸与を行ったり、トイレの設置が難しい場所については、携行用のトイレの購入経費を一部支援することで、環境整備の後押しも行っている。支援の情報周知がまだまだ足りない反省を踏まえ、来年度はしっかり取り組んでいきたい。

なお、サンショウについては、S 評価であることから、今後も盛り上げていかなければならないと感じている。

(中央西農業振興センター高吾農業改良普及所 松岡所長)

小田委員がおっしゃったように産地拡大を進めていく中で、労働力確保が大きな課題となっている。役場が先頭を切って労働力を確保しようとする姿勢を持ち、具体的な対策を考えられている。2月以降にこの取り組みの効果が出れば、新たな生産者や規模拡大したい生産者の取り組みの後押しにつながるのではないかと考えている。令和7年はそういう仕組みの実行初年度になるので、普及所としても役場と連携して取り組んでいきたい。

(No.18 さかわの地乳（ぢぢち）ブランドの再構築による販路拡大)

(大原（淑）委員)

地乳プロジェクトについてはコロナ禍で何年か休止していたが、今年度から再開して取り組んでいこうとしており、これまで4回実施してきた「ぢぢちまつり」を来年度に復活させて開催したいと考えている。「さかわの地乳」は、これまで4軒の酪農家で作ったものを(有)吉本乳業が加工し、それを地乳としていたが、残念ながら1軒の酪農家さんが廃業され、現在は3軒の酪農家さんがつくられている。

現在、佐川の道の駅では、地乳あいすが大変好評ということで、今後更なる生産拡大に向けて、(株)YOKOBATAKE-ice が来年度に新たな工場を新築する予定となっているが、建設予定地に水道が通っていないという課題がある。隣には災害時の避難所となっている柳瀬公民館もあるが、井戸水しかないため非常に心配である。佐川町の片岡町長にもお願いをさせていただきながら、ライフラインの確保をしていきたい。

(片岡委員)

(株)YOKOBATAKE-ice については、県の産振補助金の審査会があるように聞いている。難しい指摘が多いと事業が進んでいかない面もあるので、県には柔軟な体制でアドバイスをいただけたらと思う。(株)YOKOBATAKE-ice は家族経営の小さな工場だが、連続テレビ小説「らんまん」の影響により業績はうなぎ上りで、生産が追いつかない状態になっているため、佐川町としても応援していきたい。水道の要望については、これまでもお聞かせいただいているので、理解はしており、頑張らせていただきたい。

(信吉地域産業振興監)

(株)YOKOBATAKE-ice の産振補助金の審査会は来月を予定している。1回目の審査結果では

保留となっており、今回２回目の審査会に臨む形となる。審査会で採択されるように一生懸命支援させていただきたい。この取り組みは、酪農家、生乳の方、アイスの方の三位一体の体制となっており、これが崩れると地乳あいが成り立たなくなる。今回の(株)YOKOBATAKE-iceの生産拡大に合わせて、コロナ禍で休止していた地乳プロジェクトが再開するということで、地域本部としても佐川の地乳をサポートしていきたい。

(No. 15 日高村におけるクラフトビール工房を軸にした交流人口の拡大と地域の活性化(新規))
(松岡委員)

当事業については、日高村の新しい交流人口の拡大、また、地域の活性化につながる取り組みとして大いに期待しているところ。事業を実施していただけるケルビーさんについては、スコットランドで技術を磨き、地域おこし協力隊として、各地の酒造所の視察を行いながら、日本人に合ったお酒の勉強にも力を注いでくださっている。村内の新しい宿泊施設や、屋形船事業者とも連携を図りながら、日高村の魅力発信をしていただき、相乗効果で日高村の誘客につながればありがたいと考えている。また、モルトの栽培も手がけていくことから、順調にいけば耕作放棄地の解消にも期待できる取り組みとなっている。

また、ケルビーさんは、スコットランドで流行している「パブ」文化を日本の文化も取り入れながら広めていきたいという思いをお持ちの方なので、これまでの仁淀川流域にはない新しい魅力を作っていただけるのではないかと期待しており、関係機関の皆様にご支援をいただきながら成功させていきたい。

(信吉地域産業振興監)

仁淀川流域ではジン、ウイスキー、そして今回のクラフトビールの製造ということで、お酒の新規アクションプランが続いている。ケルビーさんご夫婦とは、事業計画づくりの段階から地域本部も関わらせていただく中で、真摯に向き合っていたいただいた印象を持っており、このご夫婦であれば、事業は成功するだろうと個人的に感じた。今回は、県の補助金の要件に残念ながら該当はしなかったが、国のローカル 10,000 プロジェクトの補助金活用を目指して、取り組みを進めていっていただき、その後は、観光の取り組みについて支援できるところもあるので、観光振興スポーツ部と連携して引き続き、サポートをしていきたい。

(No. 20 「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進)

(大原(哲)委員)

仁淀ブルー観光協議会では、昨年、初開催した「ONSEN・ガストロノミーウォーキング in 仁淀ブルー」が好調で、申込者 115 名(当日参加者 110 名)のうち、流域内の参加者が 8 名、その他は四国内や東京、滋賀、神奈川から参加いただき、今年も続けて実施したい。

また、仁淀ブルー体験博については全 56 プログラムで展開し、参加者は 567 名で、予約率も 67.8%と好調だった。インバウンドは、流域の観光客増加に向けて皆さんに取り組んでい

ただいているため、順調である。

前回のフォローアップ会議で、板原座長からご案内があった仁淀川流域における修学旅行の受入れについては、いの町にある亀の井ホテルを利用した流域の修学旅行プランを高知県観光コンベンション協会にモデルプランとして提示しており、今後進めていく。

(松木委員)

昨年、「関東仁淀ブルーの会」が発足され、関東に住む流域出身者が地元へ帰れる機会の仕組み作り等について意見交換がされたと伺った。越知町が中心になって実施されていると聞いたが、今後どのようにして地元へ帰ってきてもらう仕組みをつくっていくのか。

(小田委員)

昨年の5月に発足し、11月に東京で設立総会を開催したところ。現在、高知県出身者や仁淀ブルーファンを含め、年会費2,000円でサポーターを募っている段階。取り組みの方向性として、まずは仁淀川流域と関東でお互いに行き来をして、交流の場を持ち、ゆくゆくは若い方を中心にUターンやIターンにつなげていく狙い。

(中山委員)

特定のアクションプランの話ではないが、インバウンドの影響で観光や宿泊の受入れ等、何をするにしても多言語対応が課題となっている。霧山茶園では、英語圏の方から予約があった際には、英語ができる日高村の地域おこし協力隊の方に助けていただきながら対応しているが、小規模事業者にとって、自分のところだけで対応するには厳しい実情がある。自社の商品や体験の内容等を外国の方にも丁寧にお伝えするために考えられる支援やサポート体制があればお伺いしたい。

(地域観光課 仙頭課長)

私が聞いた話では、例えば、三原村のある民宿の場合、お遍路の関係で様々な国の方からの予約が入っており、時にはインスタグラムのメッセージで予約が入ることもあるそうだが、グーグル翻訳を使ってやり取りをされているようである。

観光部局の支援策としては観光振興推進総合支援事業費補助金の中で、例えば翻訳ツールの導入に対しての支援ができると考える。

また、どうしても事業者ごとの個別対応が難しいということであれば、村や流域の各事業を一つのパッケージにしてガイドをつけて売るといった対応も考えられる。予約に関しても仁淀ブルー観光協議会のタクシープランのように、一元的に仁淀ブルー観光協議会で受け付けを行い、支払いはクレジットカードを使ってタクシー側で受け付けるようにするなど、そういった仕組みを上手く取り入れていくことも必要。実際の現場では非常に苦労されていることがあろうかと思うので、一度、仁淀ブルー観光協議会でも問題提起していただき、地域として対応策を検討することが望ましいのではないかと思います。

(信吉地域産業振興監)

地域本部では、個別のアクションプランごとに対応はさせていただいており、現在、日高村の屋形船に関して台湾からの誘客に向けた、多言語化のツールを整理しているところ。

(宮地地域支援企画員（総括）)

昨年度から日高村のいくつかの施設において産振アドバイザー制度を活用し、多言語化に対応してきている。今年度は、特に屋形船に、台湾からのチャーター便のお客さんが多く来られているので、台湾語に絞った乗船時の注意事項やライフジャケットの着用等、大切な情報を説明できるような取り組みを進めている。また、ガイドについても、これまでは日本語と英語のみであったが、新たに台湾語のガイドの作成も進めているところ。アクションプランの関係から、産振アドバイザー制度をご活用いただくのも有効かと思う。

(松岡委員)

県の方で多言語に対応した人材を押さえていたり、多言語で指導・協力してくれる方の一覧表や名簿があれば、それを紹介することで事業者さんのサポートができると思う。本当に様々な国から人が来てくれているので、そこに対してどのような対策ができるのか県も一緒に考えていただき、提案していただきたい。

(地域観光課 仙頭課長)

専門家のリストのようなものは今直ちにはないが、今年度、新たにトレーニングを積まれた約 20 名の地域通訳案内士の方に関わっていただいている。例えば、クルーズ船やチャーター便で来るお客さんを現場で実際にアテンドされたりしている方の方が、高知の素材にも精通していると思うので、そういった方におつなぎすることは可能。

(板原座長)

土佐市においても、多文化共生で多くの外国の方がお越しになっている。そういった現場の動きもあるので、多言語化については、リサーチしていただきながら、困ったときに頼れるところを紹介いただけるとありがたい。また、IT 化の中で一定対応できることもあろうかと思うので、よろしくお願いしたい。

(仁淀川の水質浄化に係る国・県の取り組みについて)

(松木委員)

2020 年以降、仁淀川は良好河川として選ばれていない。一方で、四万十川は突然良好河川に選ばれている。この事実を皆さんにご認識いただきたい。原因は複合的にあろうかと思う。今後、少しでも仁淀川の保全ができるように頑張っていきたいと思うのでよろしくお願いしたい。

(2) 産業成長戦略について

第5期産業振興計画におけるバージョンアップのポイント（案）について
意見交換等、特に意見なし。

(3) 元気な未来創造戦略について

意見交換等、特に意見なし。

(以上)